

**製品名: TRRAP ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19335**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	424kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TRRAP
別名	PAF400
遺伝子 ID	8295.0
SwissProt ID	Q9Y4A5
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

**背景**

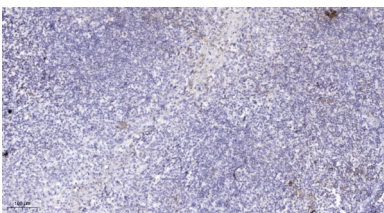
この遺伝子は、ホスホイノシチド3キナーゼ関連キナーゼ（PIKK）ファミリーに属する大型マルチドメインタンパク質をコードしています。このタンパク質は、多くのヒストンアセチルトランスフェラーゼ（HAT）複合体の共通構成要素であり、HAT複合体をクロ

マチンにリクルートすることで転写および DNA 修復に関与しています。この遺伝子の異常は、多形性膠芽腫を含むいくつかの種類の癌において何らかの役割を果たしている可能性があります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2011 年 9 月],domain:PI3K/PI4K ドメインは、HAT 複合体のリクルートと MYC 依存性転写活性化に必須です。PI3/PI4 キナーゼファミリーと強い関連があるが、PI3/PI4 キナーゼタンパク質の触媒部位を構成する典型的なモチーフを欠いており、そのような活性を欠いている。機能:アダプタータンパク質。ヒストンアセチルトランスフェラーゼ活性 (HAT) を持つさまざまな多タンパク質クロマチン複合体中に見られ、エピジェネティックな転写活性化のための特定のタグを付与する。ヌクレオソームヒストン H4 および H2A のアセチル化を担う NuA4 ヒストンアセチルトランスフェラーゼ複合体の構成要素。MYC (c-Myc) 転写活性化に中心的な役割を果たし、MYC による細胞形質転換にも関与する。p53/TP53、E2F1、および E2F4 を介した転写活性化に必要。また、重要な遺伝子の転写を脱制御するウイルス性腫瘍タンパク質であるアデノウイルス E1A を介した転写活性化にも関与している。おそらく、E1A、MYC、E2F1 などの転写因子を STAGA などの HAT 複合体に結び付けて転写活性化を可能にすることによって作用します。転写活性化プロセスにおけるヒストンのアセチル化に続く段階ではおそらく必要ありません。有糸分裂チェックポイントと正常な細胞周期の進行に必要である可能性があります。類似性: PI3/PI4 キナーゼファミリーに属します。TRA1 サブファミリー。類似性: 1 つの FAT ドメインを含みます。類似性: 1 つの FATC ドメインを含みます。類似性: 1 つの PI3K/PI4K ドメインを含みます。サブユニット: MYC、E2F1、および E2F4 転写因子と相互作用します。p53/TP53 と直接相互作用します。GCN5L2 と相互作用します。さまざまな HAT 複合体の構成要素です。PCAF 複合体の構成要素であり、少なくとも TADA2L/ADA2、SUPT3H、TADA3L/ADA3、TAF5L/PAF65-beta、TAF6L/PAF65-alpha、TAF10/TAFII30、TAF12/TAFII20、TAF9/TAFII31、および TRRAP から構成される。TFTC-HAT 複合体の構成要素であり、少なくとも TAF5L、TAF6L、TADA3L、SUPT3H/SPT3、TAF2/TAFII150、TAF4/TAFII135、TAF5/TAFII100、GCN5L2/GCN5、TAF10、および TRRAP から構成される。NuA4 ヒストンアセチルトランスフェラーゼ複合体の構成要素であり、触媒サブユニット HTATIP/TIP60 と、サブユニット EP400、TRRAP/PAF400、BRD8/SMAP、EPC1、DMAP1/DNMAP1、RUVBL1/TIP49、RUVBL2、ING3、アクチン、ACTL6A/BAF53A、MORF4L1/MRG15、MORF4L2/MRGX、MRGBP、YEATS4/GAS41、VPS72/YL1、EAF6 を含む。STAGA 複合体の構成要素であり、少なくとも SUPT3H、GCN5L2、SUPT7L、TAF5L、TAF6L、TADA3L、TAD1L、TAF10、TAF12、TRRAP、TAF9 で構成される。STAGA コア複合体は、ATXN7L3、ENY2、USP22 からなるヒストンの脱ユビキチン化に必要なサブ複合体と会合している。BAF53 複合体の構成要素であり、少なくとも BAF53A、RUVBL1、SMARCA4/BRG1、TRRAP から構成され、ヌクレオソーム内のヒストン H4 (および H2A) を優先的にアセチル化する。NPAT と相互作用する。

## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達; 転写; 補因子

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。